

# SDGs とは

2015年9月に行われた国連サミットで採択された  
2016年から2030年までに達成すべき**17**の目標と**169**のターゲットから成り立つ  
国連加盟国193か国共通目標である  
(持続可能な開発目標) Sustainable Development Goalsの略称です

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標





# 安田産業グループがコミット(約束)する取組み1

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



7.2 : 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。

7.3 : 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。

安田産業グループでは、2つの工場で廃棄物として排出された物からリサイクルし、バイオマスボイラーで利用が可能な燃料(RPF)を製造しております。2030年の目標達成へ向け、生産出荷量の増加、それに伴い国内のみならず、世界で再生可能エネルギーの割合を拡大させると事をコミットします。

現在、グループ内施設において、RPF平均1420t/月、燃料チップは平均950t/月を生産しており、2030年までに施設の増強・増設を行い、約3倍のRPF平均4200t/月、燃料チップ平均2800t/月を目指し、化石燃料に頼らない循環型社会の実現を目指します。



「RPF」とは Refuse Paper&Plastic Fuel の略称であり、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙及び廃プラスチック類を主原料とした固形燃料です。生成されたRPFは、石油や石炭等、化石燃料の代替燃料として再利用されます。



木質バイオマスとは、伐採された樹木や、造材時に発生した枝などの林地残材や製材工場や住宅の解体材などから生成される物で、主に燃料として再利用されます。

従来、廃棄物として処分される住宅解体材や工場から発生する残材等から生成されるので、廃棄物発生抑制に繋がります。

また、木質バイオマス燃料として使用する事で、二酸化炭素の排出を抑制し、地球温暖化の防止へ繋がる等のメリットがあり、新たな国産のエネルギー源として期待されています。



# 安田産業グループがコミット(約束)する取組み 2

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



- 5.a 女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、並びに各国法に従い、オーナーシップ及び土地その他の財産、金融サービス、相続財産、天然資源に対するアクセスを与えるための改革に着手する。
- 5.b 女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。



**安田産業グループでは、ICT・IOT・AI等の先端技術を取り入れたシステム構築に女性の人材を積極的に活用し、目標達成をコミットします。**



# 安田産業グループがコミット(約束)する取組み 3

8 働きがいも  
経済成長も



- 8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。
- 8.4 2030年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国主導の下、持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。
- 8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

安田産業グループでは、施設の選別機に最新の**光学選別ライン**を導入し、選別作業の簡易化による生産効率とライン能力の向上、それによる作業員の削減を実現しました。

また、**AI 搭載型配車システムの導入**により、今まで人の手で行っていた配車・配送ルート最適化を自動で行う事で、業務の効率化・省人化・走行車両の減少を実現し、地球環境にやさしいだけでなく、働きがいのある環境作りの実現を目指します。



拠点を並び替え (トラック & ドロップ) ルート全再算出 (時間) ルート全再算出 (コスト)



# 安田産業グループがコミット(約束)する取組み4

12 つくる責任  
つかう責任



- 12.2 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
- 12.3 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。
- 12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
- 12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。
- 12.a 開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。



これまで社内稟議や共有の書類等、紙媒体で使用していた物をクラウド上で管理・運用するようにしました。

また、社内会議等にインタラクティブホワイトボード導入による**ペーパーレス化**を実現し、紙の使用量削減をコミットします。

水耕栽培で製造される野菜は出荷予定を元に徹底した製造管理をすることで余剰生産ゼロを目指しています。

また、社内販売を行うことで**食品ロスゼロ**に貢献しています。

# 安田産業グループがコミット(約束)する取組み5

**11** 住み続けられる  
まちづくりを

**12** つくる責任  
つかう責任

**14** 海の豊かさを  
守ろう

## 安田産業グループは、**祇園祭ごみゼロ大作戦**に協賛しております。

**11.6** 2030年までに、大気及び一般ならびにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当りの環境上の悪影響を軽減する。

**12.4** 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。

**14.1** 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。

<https://www.gion-gomizero.jp/>

これまでお祭りで使用される容器はsingle-useされていました。リユース容器を導入することで全体の廃棄物量を削減しています。

